

機材概要

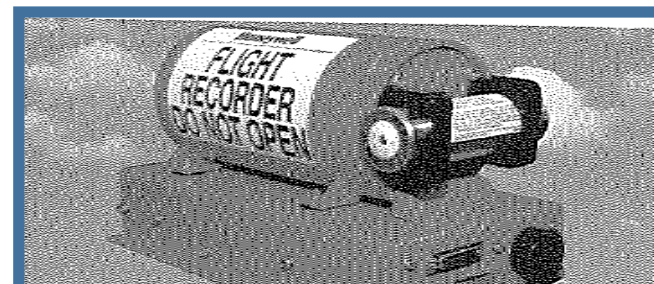
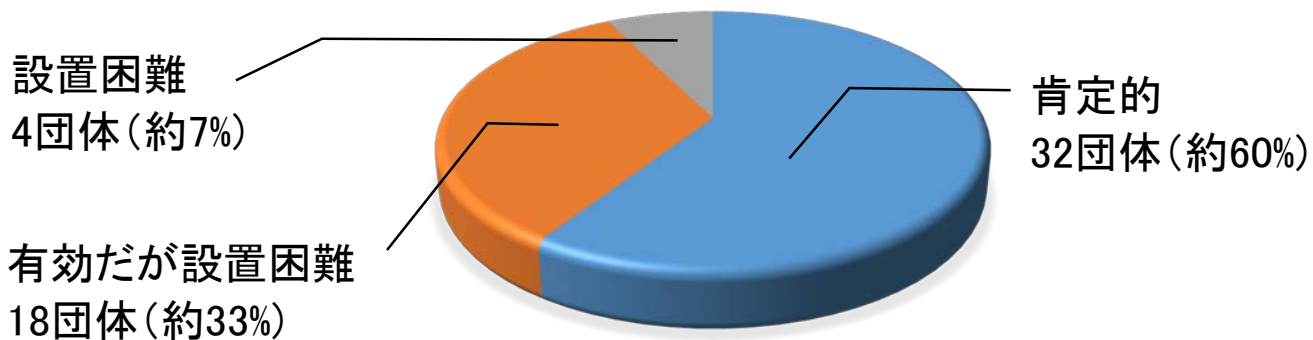
- ・ 航空機の墜落事故が発生した場合、飛行記録及び音声記録を読み出し、解析することが可能である。
- ・ 最大離陸重量7,000kgを超える回転翼航空機への搭載義務(航空法61条、同法施行規則149条)
- ・ 現在はフライトレコーダーとボイスレコーダーが一体となっているものが主流
- ・ オプション装備(ユーザの任意)とするメーカーもあるが、標準装備とするメーカーも増えてきている。

消防防災ヘリ搭載状況(H29.4現在)

- ・ フライトレコーダー 75機中17機(22.7%) ボイスレコーダー 18機(24.0%)
- ・ 搭載義務が生じる7,000kg以上の機体(4機)と、「標準装備」として搭載している機体に限られている。

航空隊意見

※調査表による調査結果(54団体回答)



AR-Series CVFDR

※世界的に最も多くの機体に搭載されている。

外形寸法: 149 × 142 × 232mm

重量: 約4kg

記録時間: 20,000時間

費用

約5,000万円/機

(約3,000万円 + 2,000万円(工賃))

工期

1~2月 + 必要期間※

※標準装備されていない機体への搭載は、動作確認のために不測の工期が生じる可能性がある。